

飛躍する台湾産業



ヘルスケア産業(上)

台湾でも日本同様、人々の高齢化と肥満化が進行する中、慢性病の予防と治療ニーズの変化によって、ヘルスケアの形態も変化している。国民の医療負担が上がる一方、医療科学技術は年々改善している。ホームケア産業の需要も増えており、この産業は、成長性のある産業と言えるだろう。医療機器産業のポテンシャル、技術レベル等の特徴を考慮し、行政院はヘルスケア産業を2015年経済発展ビジョン第一段階の三年間スパート計画～産業発展方案の新興産業推進項目の1つとしている。この計画では申請手続の簡略化や投資関連の問い合わせなどに対応している。今月号では、ホームケアを中心としてヘルスケア産業を紹介する。

ホームケア産業の現状

ホームケア産業はサービスと関連機器の二分野に分かれるが、今回は関連機器を中心として紹介する。

台湾の医療機器市場規模が年々と伸びている。2006年市場規模が台湾ドル593.4億円で、2005年より8.8%成長している(図1)。この内、台湾は医療機器の分野ではその多くを輸入に頼っているが、輸入依存率は徐々に減少している。これは、台湾のホームケア関連機器(血圧計、体温計、血糖計等)の輸出が増加しているためである。主な輸出先は米国、EU及び日本で、最大は米国である。また、2006年の国別の輸出額を見ると、日本、中国、オランダへの輸出増加が著しい(表1)。

の1つである。また、血圧計や体温計は非常に強い分野であり、これはホームケア電子機器の生理測定機器と監測設備の世界シェアが非常に高いことから良くわかる。加えて糖尿病管理機器の血糖計は、IT技術と結合させ、徐々にテレケア産業の発展をもたらしている。

表1 輸出先概況(単位:NT億元)

順位	2004年		2005年		2006年	
	輸出先	輸出額	輸出先	輸出額	輸出先	輸出額
1	米国	81.8	米国	90.7	米国	89.1
2	日本	28.4	日本	28.7	日本	31.2
3	イギリス	17.2	イギリス	18.5	イギリス	18.5
4	中国	9.2	中国	9.6	中国	12.8
5	香港	7.7	香港	7.7	オランダ	8.1

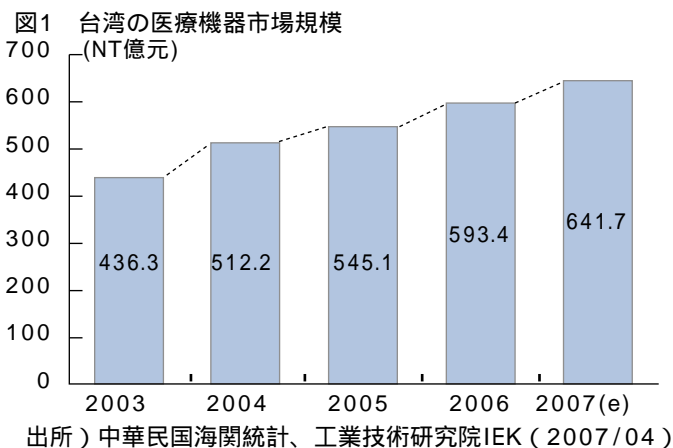
出所) 中華民國海関統計(2007/04)

主要企業

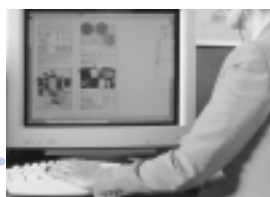
工業技術研究院によると約72.2%の企業が研究開発に力を入れ、自社技術を確立している。一方、技術提携先については、海外企業との提携が約27.8%、産学連携をしているものは21.1%ある。以下に、ホームケアにおいての上場企業と店頭登録企業を紹介する(表2)。

1. 五鼎生物技術(APEX BIOTECHNOLOGY)

五鼎生物技術は台湾国内で最初に生物感測技術を持ったバイオ医療企業である。現在、主要な商品は血糖計(Blood Glucose Monitoring System)



製品別に見ると、電動スクーターと電動車椅子は、台湾の伝統産業から医療電子産業への転換モデル



と尿酸計 (Blood Uric Acid Monitoring System) である。自社技術により量産している血糖計と関連測定用紙は台湾で台湾国内での GMP の他に、アメリカから FDA、EU から CE など主要輸出先での認証を取得した。

将来の方針に関して、ホームケア用の検査器材、特に慢性疾患と遺伝性疾患向けの検査器材を開発し、国際市場での拡販を目指している。

2. 必翔実業 (PIHSIANG MACHINERY)

必翔実業は世界第 2 位の電動スクーター及び電動車椅子メーカーである。設立当初は、農業用機械、ゴルフ乗用カートなどを生産していたが、1989 年から電動スクーターを開発し、量産を始めた。当社は電動スクーター世界シェアの 19 ~ 20% を占める。同社の輸出比率は 98% で、主な輸出先は米国 (55%)、EU (35%)、日本 (10%) である。

今後、米国市場に対しては更なる販路拡張を目指す一方で、EU と中国に販売拠点を設置していく計画である。

3. 合世生医科技 (HEALTH & LIFE)

合世生医科技は電子式血圧計専門メーカーであり、ODM を中心に成長している。主な商品は手首式電子血圧計、上腕式電子血圧計などの血圧計である。2005 年の売上は NT10.08 億円で、その内、血圧計の売上比率は全体売上の 99.24% に達し、345 万台

を輸出している。

近年では、体脂肪計、肌質解析計、UV 測定センサーなどの商品も消費者から好評を得ている。また、IT 業者と提携し、テレケアサービス市場に参入している。

4. 百略医学科技 (MICROLIFE)

百略医学科技は世界第 2 位の血圧計メーカーである。台湾に商品開発センターと HQ 機能を置き、スイスにマーケティングセンター、中国に生産拠点、米国とドイツに基礎研究実験室がある。

設立当初は体温測定器がメインだったが、デジタル医療領域にも進出し、現在ではデジタル血圧測定システム、デジタル体温測定システムを中心に生産している。当社は ODM 商品が約 70%、自社ブランド商品が約 30% を占める。

5. 優盛医学科技 (ROSSMAX MEDICAL)

優盛医学科技は世界第 3 位の血圧計メーカーである。設立当初は文房具用品を生産していたが、ビジネスモデルを何度か変更した後、1992 年から電子式血圧計に関する研究開発と生産を始めた。2006 年の売上は NT11.61 億円で、その中で血圧計の売上比率は全体売上の 95.76% である。血圧計のトータル販売量は 345 万台である。地域別輸出割合は約 50% が EU、約 39% が米国である。現在、テレケアシステムに関しても積極的に取り組んでいる。

表2 ホームケア上場と店頭登録メーカーの概況

企業名	上場/ 店頭登録	資本金額 (NT元)	売上(NT元)		設立時間	ホームケア関連商品	
			2005年	2006年		商品種類	対全体売上比率(2006年時点)
五鼎	上場	7.41億	8.4億	10億	1997	血糖測定計、関連測定用紙	96.27%
必翔	上場	17.34億	20.19億	19.28億	1983	電動代步車、電動車椅子	92%
合世	店頭登録	3.49億	10.09億	10.66億	1996	血圧計	97.87%
百略	店頭登録	11.6億	35.66億	39.22億	1981	血圧計、体温計	血圧計:44.70% 体温計:26.43%
優盛	店頭登録	5.42億	11.33億	11.61億	1988	血圧計	98.16%(2005年)

出所) 各社アニュアルレポート、NRI作成。